



「親子導入」の 診療スペース

パーティションで区切られた診療スペース。保護者がそばで見守ることができる。



スタッフの子ども預かる 保育所

1階に保育所を設け、病児保育も行える体制とし、患者さんだけでなく、スタッフの子どもも預かっている。「スタッフが働きながら子育てができるように」という院長の思いから。責任者の今中●●●保育士によれば、「保育園と異なり、月1回ほどの関わりになるため、逆に気軽に悩みを話してくれる。歯科の関わりは10年以上の長期間となるため、親子の成長を見届けられるのも、歯科医院で保育士をするメリット」だという。



トイレのそばには、子ども用のシャワールームもある。

当院は、予防（小児、成人）に本格的に取り組み始めてから、レセプト枚数、医療収入とも急速に伸びていきました。この時、「本気で取り組む」ということは、スタッフを信頼して現場に任せることだと理解しました。

歯科は明確な分業化が進んでおらず、ややもすれば院長が細かいことにまで口出しがちですが、チームでの組織的な対応力が問われる予防中心の歯科診療で

不採算部門としての ECC予防

他方、当院を含め、いわゆる「キッズモデル」の業態を採用している歯科医院に定期的に通っているのは、大抵が豊かな階層の親子です。保険診療が適用されない、あるいは現状では保険診療ではコストに見合わないため、クラブ組織を介在させるなど「プラスアルファ」の患者負担があることが、実際のハイリスケ層と来院者層とのギャップを生む原因の一つではないかと考えられます。